

Mランドささ山校 ニュース Vol. 20

平成20年11月1日発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上569 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940

発行責任者 井 階 正義 HP <http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

Mランドウォッチング

■高齢者安全運転教室を開催しました。

これは、篠山市シルバー人材センターの方々の自発的な取り組みにMランドが呼応協調した形で実施したものです。

安全運転の励行はもちろんですが、自主自立の精神は人間の尊厳を守ることにあります。また誰でも感じることでしようが、自発的に行なうことほど楽しく充実した気持ちになります。

人生の先輩方がなおも意気軒昂で活躍されますようにとMランドでは一般的には高齢者講習と呼ばれているものを「オレンジ講習」と言っています。高齢者マークの色合いから円熟味、温かさなどをイメージし、名づけたものです。



受講者を前に挨拶をする永井教習部長

内容については、以前当校で実施した内閣府主催のシルバーリーダー講習会を基にして、学科と適性検査と運転の三班に分かれて参加・体験・実践型を意識し、受講者の方により身近な出来事として少しでも印象に残るような講習をと検討したものです。

① 学科

注意配分力と判断力と記憶力の診断を行ない、安全な交通行動において不可欠な認知・判断力の自己採点をしていただきました。

② 適性検査

反応検査と視力検査を行ない各個人の現状の能力を確認していただきました。

③ 運転について

四輪車と原付での速度体感の違いと交通事故が多い右折する際の他車との関係及び一時停止場所からの出方(見通しの悪い交差点を含む)を実車で体験していただきました。

『慣れから油断が変わるとき』が交通事故に結びつきます。単なる講習で終わるのではなく、ご自身の運転状況や能力を見直して、日常の交通場面で実践していただき、この篠山でこれからも安全で快適なカーライフをお楽しみください。(後藤 茂)

「ファンの集い」開催

■十月二十六日(日)、第三回「ファンの集い」を開催しました。お昼は猪の焼き肉、シシ汁、枝豆ご飯やキノコご飯のおすびと、ささやかではありましたが篠山ならではの食事を堪能していただきました。ご参加ありがとうございました。



懐かし顔が揃い、再会にカンパ〜イ！



ミロスタッフの指導で黒豆パンづくり

収穫した丹波黒枝豆や柿、手づくりの黒豆パンをおみやげに、お元気で、ご活躍ください。



収穫したての枝豆で自分用のおみやげづくり



何ができるのかな？記念に陶芸に挑戦



タコ焼きサービスも…

Mランド運転免許(二)

■卒業生からいただく手紙には、「貴重な体験をしました」「友達ができました」「心の大切さを教えてもらいました」など、感謝の言葉が述べられています。

自動車教習所は「運転技術を教える場所」ではなく「ゲストが運転技術を習得するためのお手伝いをする場所」と考えることにより、主役はあくまでもゲストであり、自主自立、体験することすべてが学びとなります。それは教習所にとってもサービス業という位置づけになり、これが教習生の方をゲストと呼ぶゆえんです。そしてこのことによりインストラクター・スタッフは謙虚に練習向上することができるようになります。この考え方がMランドの「共に成長する」ということにつながっています。



教習の最初と最後には

共に学びましょうと握手をします

熱い篠山の秋祭り

■篠山春日神社の秋祭りは、観光客もあわせ多くの人出でにぎわいました。

京都祇園祭の影響を受けたこの祭りは、町内ごとで飾りつけられた華麗な鉦山が、笛や鐘の打ち鳴らす「コンコンチキチ」のお囃子を響かせて城下の街並みを巡行していきます。

三笠・鳳凰・高砂などの銘を持つ九台の鉦山は、三百年以上も受け継がれ、その巡行は優雅で情緒たっぷり。滞在ゲストも絶好の機会を楽しまれたようです。



きらびやかな鉦山の巡行が続きます

また、勇壮な太鼓みこし八台の練り込みもにぎわいを添えます。みこしに乗ったこどもが叩く太鼓に、ハッピー姿の担ぎ手が氣勢もろとも

みこしを高々と差し上げると観衆から拍手と歓声があがります。



先頭で指揮する井階所長率いる太鼓みこし

この太鼓みこしは、およそ一五〇年前、春日神社の祭礼に王地山の陶工たちが加勢として参加したのが始まりと伝えられます。みんな支え、盛り上げ、守り伝えられている伝統の祭りにおとなもこどもも実に誇らしそうに見えました。



担ぎ手の中に中野 INS の姿がありました

田さんの食養講座

第一回（五回シリーズ）

ライフハーモニー

教育研究所長

位田 隆久

『体は食べ物で

出来ています』

メタミドホス・メラミン・ジクロロボス等、聞き慣れない舌をかみそうな名前が新聞一面に登場です。次々に起こる食品に関する事件に食の不安が広がっています。世界一豊かといわれる日本の食の中身が今問われています。

さて、今から十年以上前、洗骨葬という埋葬の伝統儀式を行っていた沖永良部島（鹿児島県）でのことです。遺体を土に埋め、後日骨を取り出し洗骨式を行います。ところが、掘り返すとまだ土に戻っていないのです。その上、色や臭いが多くなるとは違うことが多くなるとは違いました。古老たちが相談した結果、長く続いたこの儀式は中止になりました。原因の一

つに食べ物があります。保存料・着色料等の添加物が入った食べ物です。私たちの体は食べ物で出来ています。

ところで、沖縄県の男性の平均寿命はそれまでの全国一位から二〇〇〇年に四位に後退し、その後は下がり続けて現在二十五〜二十六位です。敗戦後の占領下で起こったことの一つが食の欧米化です。その影響を一番受けたのが男性です。沖縄クライシスと呼ばれ、逆さ仏（逆縁）という、親が子の葬式を出す現象が起こっています。将来の日本全体の姿が沖縄の男性に現れているのです。

伝統食を忘れ、ファーストフードやジャンクフード、そして輸入食品に依存する食生活の影響です。体は食べ物で出来ています。さらに、年間死亡者の三分の一は癌で、心臓疾患の二倍、脳疾患の二倍です。中でも胃癌が減少するなか大腸癌が激増しています。日本とは逆に、いち早く食改善運動を起

こしたアメリカの死因一位は心臓疾患で、癌死は毎年二%ずつ減少しています。その元となった食と健康の世界調査であるマクガバン報告の結論は「最も理想的な食は日本の伝統食にある」でした。いのちは食べ物で支えられています。体は食べ物で出来ています。

二五〇〇年前の医聖ヒポクラテスの言葉を紹介します。「食べ物で治らない病気は、医者にも治せない」。ミランド篠山の皆さまへ食の講座、お付き合ってくださいませ。合掌

◆位田隆久先生紹介◆

いんてんたかひさ



一九四九年兵庫県高砂市生まれ。二〇〇四年報徳学園中・高等学校校長（七年間）を退職後、ライフハーモニー教育研究所を設立。社会教育家として企業、学校、地域等で幅広い講演活動を展開。NPO法人日本総合医学会理事・食養指導士。

編集後記

■このニュースも三年目に入りました。この激変の時代を共に勇気と希望を持って生きられるよう成長・挑戦、より良いものにしていくと「社外の方と共に創る」を「読んでためになるお話」を取り入れ、いろいろな角度からこのニュースの紙面を構成していくと思っています。

そこで、以前ご講演をお願いした縁から位田隆久先生に五回シリーズでコラムをお願いしました。

食べることは生命維持のためだけでなく、文化や人間の生き方にも係わる深いお話が伺えそうです。（文）きょうと今日も

いい日になります。



霧の中より姿を現わした丹波富士（高城山）